

かえで通信



Vol.77
2021・4月

糖尿病とがんの関連 文責：糖尿病内科 竹内

日本人糖尿病患者の死因調査では、一般人口同様に癌が1位とされています。

糖尿病があると癌にかかりやすいのかどうかについては、さまざまな大規模調査が行われており、すべての癌に対するハザード比1.19、つまり19%罹患しやすいとの報告があります。特に肝臓がん、子宮内膜がん、膵臓がんのリスクが高いことが示唆されています。

糖尿病と癌が関連しやすい機序の一つとして、両者に共通の危険因子が上げられます。加齢、肥満、運動不足、過剰飲酒、喫煙習慣などです。

例えば、肥満や運動不足があるとインスリンが効きにくくなり、これに打ち勝つために、より多くのインスリンが必要になります。インスリンには血糖低下作用に加えて、増殖作用がありますので、高インスリン血症を伴いやすい状態は、発癌に対してあまり好ましくないと考えられます。また、高血糖自体が全身的な慢性炎症をひきおこすという報告もあります。慢性炎症は発癌との関連が示唆されています。さらに、肥満状態で女性ホルモン(エストロゲン)の活性化が亢進することが示されており、乳腺や子宮内膜細胞に影響する可能性があります。逆に糖尿病で男性ホルモンに依存的な前立腺がんの発症率が低いとされることとも関連が考えられます。

糖尿病治療による癌発症の抑制については、治療薬を含めてははっきり示されておりません。メトホルミン(当院採用薬はメトグルコ)で大腸癌発生母地となる腺腫の発症抑制が示されておりますが、発癌の抑制が証明されたわけではありません。やはり、肥満、運動不足、過剰飲酒、喫煙習慣の是正は重要です。なお、食事内容で赤肉・加工肉の摂取について、日本人の摂取量は少なく、よほどの大量を定期的に食べない限り、リスクは上がらないと考えられます。がんのスクリーニングは市町村や職場での健診を利用してください。できれば腹部エコーを追加したドック健診が推奨されます。

糖尿とがんの共通危険因子

肥満



喫煙



過剰飲酒



運動不足



加齢

